

鳥屋野潟南部開発地区

(新潟県新潟市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 260ha
- 交付対象事業費 3,277百万円
- 市人口 776,468人

ポイント 新たな機能と地区の資源を活用し **地区概要** 都市の拠点性を向上させる

とやのがた
鳥屋野潟など本地区の恵まれた自然環境や交通網等を活かし、市民病院開院（H19）や国体開催（H21）に向けた周辺の都市基盤を整備することで、都市の拠点性を向上させる。

- 目標**
- ◇市民病院の開院に合わせた「医療福祉機能」の導入
 - ◇外来者・市民交流のための「交流機能」の導入
 - ◇水・緑豊かな自然を活かした「新潟らしい都市景観」の創造
 - ◇アクセスが良く歩行者・高齢者にやさしい「交通体系」の確立

指標 市民病院入庫待ち渋滞の解消

新市民病院周辺道路の整備改善により医療福祉機能の向上を図る。

鳥屋野潟公園の利用者数の増加

安全・快適な歩行者ネットワークの整備により鳥屋野潟公園へのアクセス向上を図る。

指標	従前値	目標値	実績値
駐車場入庫待ち渋滞長	600m (H16) →	0 (H21) →	0 (H23)
公園利用者数	134万人/年 (H16) →	150 (H21) →	143 (H23)
本地区退出完了時間	100分/イベント (H16) →	60 (H21) →	75 (H23)
関連・利便施設の件数	0件 (H18) →	32 (H21) →	32 (H23)

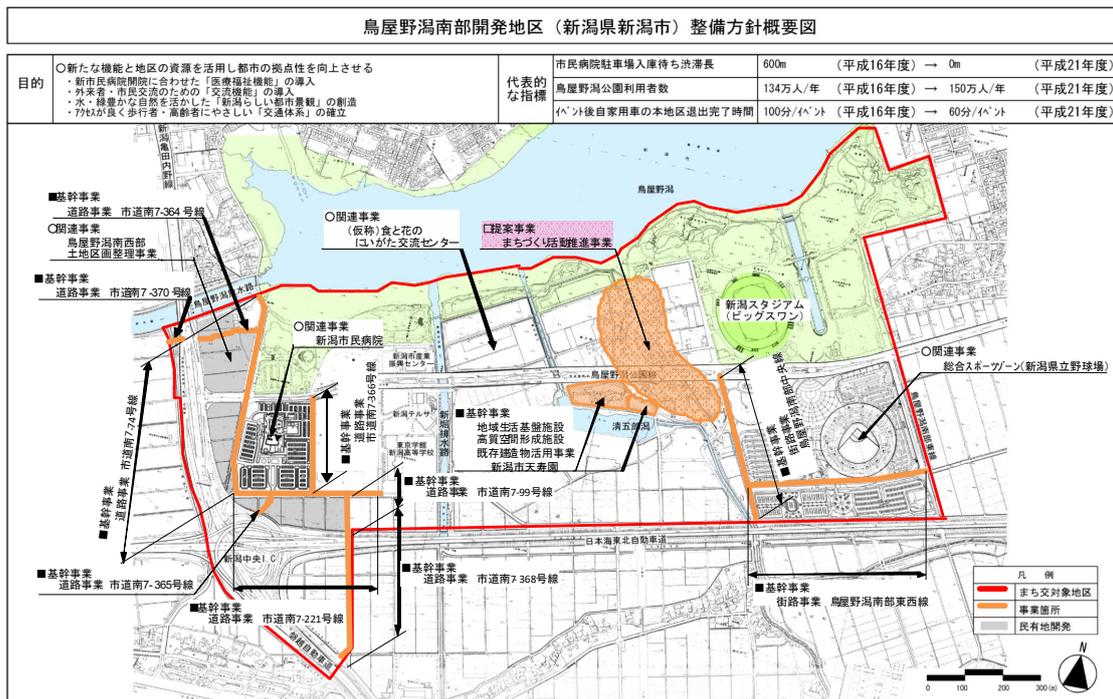
イベント後自家用車の本地区退出完了時間の短縮

交通網の整備改善によりイベント時の交通渋滞の緩和を図る。

市民病院の開院時に必要な関連・利便施設の設置

新市民病院の関連・利便施設により医療福祉機能の向上を図る。

事業内容 基幹事業（3,447百万円） → 道路（幅員12m～28m, 延長3,550m）、天寿園（1箇所, 20,000㎡）
提案事業（1百万円） → まちづくり活動推進事業（検討会, 年4回程度）



地区の現況と課題

- ◇市民病院(平成19年秋開院)に対応した都市基盤が整備済
- ◇交流施設利用者の多様なニーズに応えられる利便施設が充実
- ◇鳥屋野潟・鳥屋野潟公園などの水・緑と調和する都市景観が形成
- ◇スポーツ公園(平成21年国体開催)周辺の都市基盤が整備済

提案事業の特徴

まちづくり活動推進事業

せいごろう

地区内の既存集落である清五郎地区におけるまちづくり推進検討会の開催を予定している。

都市的土地利用が行われる中、清五郎地区の水と緑豊かな自然を活かした「新潟らしさ」を再認識し、まちづくりと景観形成に向けた官民の役割を検討する。

計画策定プロセス

まちづくりワークショップ

まちづくりの検討を行うため、土地区画整理組合設立準備委員会を主体に「まちづくりワークショップ」を開催した。

ワークショップの構成員として、行政、地権者の他、本地区への出店予定企業者、学識経験者、実践経験者なども含めて検討した。

鳥屋野潟南部開発計画

平成元年から、新潟県・新潟市・亀田郷土地改良区の3者で「鳥屋野潟南部開発計画」として整備を推進している。

基盤整備検討会

市の関係13課により、「基盤整備検討会」を発足し、横断的な検討を行った。

交通計画検討会

本地域のイベント交通の円滑化と通常交通の利便性を図るため、学識経験者、バス事業者、交通管理者、行政(国土交通省、新潟県、新潟市)等による「交通計画検討会」を発足し、ハード・ソフト両面からの施策を調査検討した。



▲ 鳥屋野潟南部開発地区全景



▲ 新市民病院



▲ 旧市民病院の入庫待ち渋滞状況



▲ (仮称)森のトンネル整備イメージ



▲ 県民・市民の憩いの場 鳥屋野潟公園